

賛否など態度決定に至った理由・討論

令和 6年 9月定例会	
議案番号 議案名	議案第26号 令和6年度松戸市一般会計補正予算(第4回)
議員名・会派名等	日本共産党
賛否態度	反対
賛否など態度決定 に至った理由や 討論	私たち日本共産党は、本会議および委員会での討論という本来の発言を最大限に活かすことが議員の責務と考えます。 非公式の場に、議会で発言してもいない意見を掲載するというやり方は、議員自らが議会における議論を軽視する行為であるという考えから、以下、本会議や委員会などの公の場で討論した内容を掲載します。 2024年9月26日 本会議 討論 日本共産党のミール計恵です。 【議案第26号】松戸市一般会計補正予算(第4回)について会派を代表して反対の立場から討論します。 本補正予算は、新拠点ゾーンへの市役所移転建て替えに伴う周辺の家屋調査等の費用、旧法務局等の解体費用、解体工事に伴う害獣駆除の費用、新庁舎整備基本計画策定費用、そして埋蔵文化財の調査の費用、総額約4億9千万円です。 本年6月に33億5千万円で取得が決まった市役所移転のための国有地は、新拠点ゾーン南側の旧法務局跡地です。現在もそこには、旧法務局庁舎や旧官舎など複数の建物が建っているため、その解体を含めた売却であるので、本補正予算は国有地の活用を前提とすれば必要となるものです。 しかし、市役所移転のための国有地取得議案は去年の臨時議会で主にこの土地の「狭さ」と「周辺環境」について疑義が出され、13対30という大差で否決されました。 そこで市はその課題を解決するためとして、市役所を第1ステップと第2ステップで段階的に整備する「市役所機能段階的整備案」や、当該国有地の接道、通称S字道路周辺の崖を含めた私有地を購入し交差点改良を行う計画を提示してきました。 昨年反対した多くの議員がこの提案等によって課題は解決され

たとして賛成に回り、市役所移転のための国有地取得は本年6月議会で可決されてしまいました。

しかし、本当に課題は解決されるのでしょうか。まず「狭さ」は当たり前ですが根本的には土地を広げる事でしか解決できません。しかし、市は土地を広げず建物を小さくすることで、空地が広がり課題解決としています。しかしこの解決方法では、新たな課題が生じます。それは、「分散化」です。建物を小さくするため、これだけでは足りずに、現庁舎の議会棟と別館を継続使用するからです。「分散化解消」が市役所建て替えの目的の一つであったのに、分散化がかえって悪化する本末転倒な計画です。しかも市は、第2ステップで集約化を目指すとし、「段階的整備案」そのものが大きな矛盾を抱えています。

また周辺環境についても、不要な南側がけ地まで購入し、S字道路に入る右折レーンを設置しても、急な坂の下の交差点で危険性が高いことには変わりがなく、また国道6号の右折レーン設置と、S字道路の双方通行化で、交通量が1.4倍になるという予測のもとで交通安全や渋滞などへの懸念も払しょくできません。

さらに、そもそも市役所を移転するために必要な「移転条例」を市はいまだに提案していません。場所も決めずに、土地取得を進め、一部市役所を建てる「外堀を埋めるようなやり方」は地方自治法に定められた行政の適正な手続きの在り方とは言えず認めることは出来ません。

したがって、移転条例を経ずに、あらゆる課題を第2ステップに先送りする、自己矛盾を抱えた「市役所機能段階的整備案」をもとにした「新庁舎整備基本計画」策定を進める事は今後の計画に責任を持てず到底賛成できかねるため、本補正予算案に反対を申し上げ討論とします。